

登山月報



アクタシ(7,016 m)



「Top of the Top 2020」の大会報告	2
— 2020年スポーツクライミング日本代表の頂上決戦 —	
第6回ボルダリングユース日本選手権大会報告	3
スポーツクライミング 2024年パリオリンピック追加種目正式承認	4
2020年度JMSCA国体委員総会報告	5
第145回 Mountain World	7
新連載 Enjoy Climbing	8
JMSCA公認夏山リーダー資格を取得して	9
コロナ禍の中で、その後で(その4)	10
UIAA総会報告	10
2020 IFSC総会報告	12
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	12

「Top of the Top 2020 –2020年スポーツクライミング日本代表の頂上決戦–」の大会報告

2020年度のスポーツクライミング国際競技大会は新型コロナウイルス感染症によってほぼ中止となりました。この状況においてアスリート委員会と強化委員会は2020年スポーツクライミング日本代表選手たちのために国際競技大会の代わりになるようなイベントとして「Top of the Top2020」の企画を考えました。

コロナ禍の中で多くのスポーツと同様にスポーツクライミングの選手たちも練習できない時期があり、先行きが不透明な中で選手たちは懸命に活動してきました。そして、スポーツクライミング日本代表に初めて選出された選手たちも日本代表ユニフォームを一度も着ることなく漠然とした状態でシーズンを終えなければならぬ状況でした。

そのような中で私たちは3つのやりたいことを念頭に大会開催を目指しました。

はじめに、「選手たちが真剣勝負できる強化の場になりたい」ということ。私は大会とは a) 勝利を目指して競い合い真剣に愉しむ場である。b) 自己発揮の場である。c) より良い自分を目指す人格を磨く場である。と考えています。そのため真剣勝負できる「場」の創出をまず第一に考えました。

次に、「スポーツクライミング日本代表選手たちに日の丸をつけて登ってもらいたい」ということ。選手たちが憧れる日の丸がついた日本代表ユニフォームを着て登る姿を見ていただきたいと考えました。選手たちは自分自身の努力はもちろんですが、日頃から多くの方々に支えられて成長したおかげで日本代表になれたと思います。勝ち取った日本代表の姿をその方々に見せられる場は選手にも支える人たちにも特別な場ではないかと考えました。



最後に、「世界中の愛好者やファン、そして日本代表を夢見る子供たちに日本代表選手の素晴らしいパフォーマンスを見てもらい夢や感動を届けたい」ということ。2019年スポーツクライミング日本代表チームはワールドカップ国別ランキングでボルダリング種目、リード種目共に世界一のチームとなりました。日本代表選手たちの登りは世界最高峰のパフォーマンスであり、コロナ禍においてその姿を発信することはクライミング界にとっても大きな意味を持つと考えました。

このような理由から本大会は私たちにとっても意義ある挑戦であり、選手たちと共に創り上げたイベントでした。

【大会結果】

下記のような結果となり、女子では、リードで野口啓代が唯一の完登で見事に優勝し、ボルダーでは最終課題で唯一完登した中村真緒が涙の優勝を飾った。男子ではリード・ボルダーともに高田知堯が優勝し、見事に二冠を達成しました。

大会の様様と選手たちの素晴らしいパフォーマンスは「YouTubeチャンネル：JMSCA Competition TV」に

順位	女子ボルダリング	男子ボルダリング	女子リード	男子リード
1位	中村 真緒 (青山学院大学)	高田 知堯 (鳥取県山岳・スポーツクライミング協会)	野口 啓代 (TEAM au)	高田 知堯 (鳥取県山岳・スポーツクライミング協会)
2位	野口 啓代 (TEAM au)	檜崎 智亜 (TEAM au)	平野 夏海 (国士館高等学校)	檜崎 明智 (TEAM au)
3位	伊藤ふたば (TEAM au)	緒方 良行	久米乃ノ華 (船橋市立船橋高等学校)	樋口 純裕 (佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟)
4位	久米乃ノ華 (船橋市立船橋高等学校)	原田 海 (日新火災)	谷井 菜月 (檀原学院高等学校)	緒方 良行
5位	平野 夏海 (国士館高等学校)	檜崎 明智 (TEAM au)	阿部 桃子 (相模女子大学高等部)	北江 優弥 (東京都山岳連盟)
6位	工藤 花 (山形城北高等学校)	藤井 快 (TEAM au) ※決勝は欠場	伊藤ふたば (TEAM au)	同5位 村下 善乙 (千葉県立柏南高等学校)

てぜひご覧ください。

本大会は大会運営に不慣れな強化委員会を中心に実施であり苦勞しました。しかし、スポーツクライミング日本代表選手たちのためにと多くの方々にご協力いただき無事に開催できたことに大変感謝しております。競技前に「緊張します」と言っていた選手もいて予定通り真剣に競技できる大会となりました。

2020年はスポーツ界にとってもクライミング界にとって困難な年ではありましたが、この大会の中でベテラン選手の活躍はもとより若手の選手たちの台頭も見る事ができうれしく思いました。また久しぶりにクライミング関連のニュースがテレビなどで取り上げられ、クライミング界に明るい話題を提供できたのではないかと思います。

また、同じタイミングでアスリート委員会では社会貢献活動として「Climb for Tomorrow 2020 (新型コロナウイルス感染症対策支援プロジェクト)」を立ち上げ、クラウドファンディングでの支援金募集活動を開始しました。このようにクライミングを通してできる社会貢献を引き続きスポーツクライミング日本代表で実施できればと考えております。

このように未曾有のコロナ禍においてクライミングの価値を再考し、新型コロナウイルス感染症の終息を願いながら今後もできることをやっていきたいと思えます。再度、関係者の皆様に感謝いたします。

(強化委員長 安井博志)

「Climb for Tomorrow 2020
(新型コロナウイルス感染症対策支援
プロジェクト)」



第6回ボルダリングユース日本選手権大会報告

村岡正己

新型コロナの感染拡大が始まって10ヶ月、倉吉市で予定していた第6回ボルダリングユース日本選手権(以下BYC2020)は延期となり、LJC、LYC同様に会場の選定にいろいろ戸惑ったが、葛飾区で受け入れて頂き開催に漕ぎつけることができました。また、コロナ禍でスタッフの参加においても会社によっては禁止するところも出てきており、大会運営の厳しさは続いている状況です。改めてこの大会に関わった全ての方に感謝申し上げます。

期 日：予選 2020年11月21日(土) - 22日(日)

決勝 2020年11月23日(月)

会 場：葛飾区東金町運動場

スポーツクライミングセンター

選 手

男子ユースC 47人・B 43人・A 45人・ジュニア 15人

女子ユースC 50人・B 26人・A 35人・ジュニア 11人

男子 150人 女子 122人 合計 272人

*選手は、昨年の368人より大幅に減少し、エントリーで292人、途中20人のキャンセルがあり最終的には272人が出場。新型コロナの影響は大きい。

Report 1 競技 (決勝)

BYCでは決勝を3課題で争っているため、アテンプト差で勝負の行方が決まることが多く、ちょっとしたミスが影響してくる。今回、昨年のジャパンツアーの覇者、すでに世界で活躍する選手などが参加しており

レベルの高い戦いが繰り広げられた。

ユースC

男子：予選1位の加藤頼斗が3完登。追いあげる藏敷慎人も3完登するが、第1、2課題を一撃した加藤が4アテンプト少なく優勝を勝ち取る。

女子：第2課題まで一撃完登の村越佳歩がリードしていたが、関川愛音が第3課題を1撃しアテンプト数1の差で逆転優勝。力強い登りは13歳とは思えないほど。

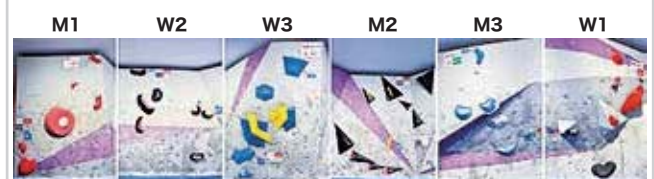
ユースB

男子：3課題とも一撃完登の安楽宇斗が優勝。10月開催のLYC2020でも優勝したがそれに続いて2冠達成。

女子：第1課題を小池はな、長谷川颯香が完登。第2課題は竹内亜衣のみが完登。3課題目での勝負となり小池が1撃完登。結果アテンプト2の小池が優勝。リードを得意としていた小池、ボルダリングでも力を発揮し始めてきた。

ユースA

決勝課題(ユースA・ジュニア)



男子：1 課目は3 選手完登。第2 課目は、左へ駆け上がるようなトラバースから右へラウンジするバランスな課題。ここをB J C 2020で4 位の川又玲瑛が一撃完登。多くの選手が苦勞するなか完璧な登りであった。3 課目は全選手が完登するが、2 課目の一撃が決め手となり川又が優勝。成績をジュニアと比較してもアテンプト差であるが1 位となる。

女子：ムーブが複雑な第3 課題を唯一完登した松藤藍夢が3 完登で優勝。2 月に開催したB J C 2020では、予選を首位で通過し決勝に進んだ時はビックリした。着実に力を付けてきている。

ジュニア（ユースA 同課題）

男子：百合草碧皇が各課題を2 アテンプトで完登し優勝。2 位は坂本大河で3 完登するがアテンプト数が11 と百合草の安定性が勝った。リードと合わせて2 冠達成。

女子：平野夏海が3 完登4 アテンプトとミスなく安定した登りで優勝。さすがの登り。



Report (運営)

今年からユースC を切りはなし、別大会で行う予定でしたが会場の選定など難しく以前のおりB 以上に組み、COVID-19 対応として3 日間で行った。参加数、選手の発掘含め、今後ユースC は、C 以下含めての別大会とすることもありかと感じた大会であった。

スポーツクライミング 2024年パリオリンピック追加種目正式承認

2020年12月7日にオンラインで開催された国際オリンピック委員会（I O C）理事会で、スポーツクライミングが、スケートボード、サーフィン、ブレイクダンスと共に2024年パリオリンピック追加種目に正式に承認された。スポーツクライミングは、複合（ボルダリング・リード）とスピードで実施される。

【平山ユージ副会長コメント】

2024年パリオリンピックにスポーツクライミングが正式に参加できることが決まり、大変嬉しく思います。決定に至るまでにご尽力頂いた、I O C、I F S Cそしてパリオリンピック/パラリンピック組織委員会の皆様に心から感謝を申し上げます。

スポーツクライミング選手にとっては、更なる夢の舞台に心を躍らせていることと思います。この喜びを是非、2024年パリオリンピックの舞台で思う存分発揮して頂きたいと思います。

【参考】

- I O C Website <https://www.olympic.org/news/gender-equality-and-youth-at-the-heart-of-the-paris-2024-olympic-sports-programme>
- I F S C Website <https://www.ifsc-climbing.org/index.php/news/418-sport-climbing-officially-added-to-paris-2024-sports-programme>

ユースC男子				ユースC女子									
順位	選手名	完	Z	アテンプト	順位	選手名	完	Z	アテンプト				
1	加藤 頼斗	MC08	3T	3Z	5	3	1	関川 愛音	WC27	3T	3Z	4	4
2	藏敷 慎人	MC11	3T	3Z	9	7	2	村越 佳歩	WC46	3T	3Z	5	4
3	三竿 莉平	MC43	2T	3Z	6	7	3	山根 嘉穂	WC50	2T	3Z	7	13



ユースB男子				ユースB女子									
順位	選手名	完	Z	アテンプト	順位	選手名	完	Z	アテンプト				
1	安楽 宙斗	MB04	3T	3Z	3	3	1	小池 はな	WB07	2T	3Z	2	4
2	杉本 侑翼	MB22	3T	3Z	4	3	2	竹内 亜衣	WB16	2T	3Z	4	9
3	通谷 律	MB17	3T	3Z	5	4	3	長谷川颯香	WB24	2T	3Z	10	7

ユースA男子				ユースA女子									
順位	選手名	完	Z	アテンプト	順位	選手名	完	Z	アテンプト				
1	川又 玲瑛	MA17	3T	3Z	4	4	1	松藤 藍夢	WA31	3T	3Z	5	5
2	佐野 大輝	MA22	3T	3Z	9	9	2	工藤 花	WA16	2T	3Z	3	6
3	森本 治誉	MA42	2T	3Z	4	10	3	佐藤 凜	WA21	1T	3Z	1	3



ジュニア男子				ジュニア女子									
順位	選手名	完	Z	アテンプト	順位	選手名	完	Z	アテンプト				
1	百合草碧皇	MJ15	3T	3Z	6	5	1	平野 夏海	WJ10	3T	3Z	4	4
2	坂本 大河	MJ07	3T	3Z	11	10	2	菊地 咲希	WJ03	3T	3Z	6	3
3	伊藤寛太郎	MJ01	2T	2Z	5	5	3	張替 夢乃	WJ08	3T	3Z	9	9

2020年度JMSCA国体委員総会報告

国体委員長 西原斗司男

「COVID-19感染拡大予防のため、学校を春休みまでの期間休業する」から始まった、「緊急事態宣言」や「外出自粛要請」などにより、「東京2020オリンピックの延期」（3月24日）、「日本学生スポーツライミング対校選手権大会の中止」、そして「第75回国体（鹿児島県）の延期」に至った。このようなスポーツを取巻く厳しい環境下の中、今後の国民体育大会（国民スポーツ大会）のあり方について、議論を深め基本的な「IFルール準拠」を目指した方向性を確立することができた。

なおコロナ禍のなかで、委員総会への参加を見合わせる委員もあったが主管、担当、関係理事の出席もあり、活発な意見交換が行われた。

【期日】2020年10月17日（土）13：00～17：00

10月18日（日）8：30～12：00

【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター

委員総会は、地方からの県外自粛での委任もあり、17名の出席で平山ユージ副会長（担当理事）のあいさつで始まった。

報告事項として、延期となった「第75回国体（鹿児島県）～第81回（宮崎県）の動向について情報交換を行った。栃木県からは競技場のレイアウト、佐賀県では正規視察報告、滋賀県では「運営員資格」への認識不足、青森県からは競技場／アイソレーション等レイアウト図などの報告がされた、また、第76回国体（三重県）の準備状況について、加藤理事長より「リハーサル大会中止」の経緯をはじめ詳しく説明がなされた。未確定要素が大きいため、本稿では各県での詳しい報告はできないが、非常に積極的な取り組みの報告が見られた。このように、国体は当該年度のみならず10年先までの準備にかかわっている。

なお、委員総会前の10月12日（月）にJ S P O「令和2年度第2回国民体育大会競技運営部会」が開催され、①「第75回国体（鹿児島県）を2023（令和5）年に開催し、②同年、翌年に開催が内定していた佐賀県及び滋賀県における国民スポーツ大会を、それぞれ2024（令和6）

年、2025（令和7）年に開催し、③以降の開催県についても1年順送りを基本とする取扱い説明があった旨、西原委員長より報告があった。

「COVID-19感染予防ガイドライン」について、村岡競技委員長より8月に岩手県盛岡市で開催された「リードジャパンカップ」の報告があり、感染予防策や今度の競技会に向けた予防方法の考え方が示された。

国体においては、J S P Oの考え方が方向性を大きく左右するため、情報収集に努めながら、本委員会策定の「国体スポーツライミング競技COVID-19ガイドライン」を逐次改正して、安心・安全な「新しい生活様式」での対応を行っていくことを確認した。

一部文言の修正指摘があった。

また懸案事項の「本国体フルエントリーの見直し」「J S P O監督資格の検討」「コロナ渦における競技対応」などを中心に、議論が白熱した。

「フルエントリーの見直し」においては、「フルエントリー種別の変更」での「47都道府県すべてのエントリーを優先」とする議論から、「47都道府県のエントリーを基本」としながら、本国体出場数の改正などいくつかの（案）について、例示を示しながら議論を行った。Web会議に馴染まない委員会としては、久しぶりの対面式会議に大いに議論は沸騰した。

委員総会としての議論の到達点は、この「フルエントリーの扱い」とは、COVID-19感染予防やアイソレーション施設整備、競技日程、宿泊／計画輸送等で解決できない、現行の「成年男子の47都道府県出場」を、「各種別での47都道府県出場」とする、この大胆なブロック別出場数の改正を委員会として理事会に提案することが決まった。

- ①全国9ブロックを、北海道を除く8ブロックを名目上の「4ブロック」に編成し直す。
- ②その「2ブロック毎」にブロック選出数を割当てる。
- ③その「2ブロック毎」に、フルエントリーする種別を図のように年次ごとに設定する。
- ④縦は、ブロック内でのフルエントリー種別、横は当該



◆ **ブロック選出種別/選出数の提案**

	現行	提案
成年男子	47	25
成年女子	17	25
少年男子	19	25
少年女子	17	25

※3種別各1チームは開催地枠

- ◎ 一つの都府県について、毎年いずれかの種別が出場＝フルエントリー
- ◎ ブロック大会は、三種別で実施
- ◎ 開催地への負担の軽減に、協力
※COVID-19感染予防に貢献
- ◎ すべての種別の競技力向上が期待できる

◆ **出場チームの基本的な考え方**

※北海道（4種別出場）を除く。各ブロックでの割り分け

	1年目	2年目	3年目	4年目
東北(6)・北信越(5)=11	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
関東(8)・東海(4)=12	成年女子	少年男子	少年女子	成年男子
近畿(6)・中国(5)=11	少年男子	成年男子	成年女子	成年女子
四国(4)・九州(8)=12	少年女子	成年男子	成年女子	少年男子

※ 必ず出場できる種別

ブロックの年次ごとのフルエントリー種別。

- ⑤例えば、「東北・北信越」の1年目は、成年男子がすべて出場でき、他の3種別でブロック予選を行う。2年目は、成年女子がすべて出場し、他の3種別でブロック予選を行う。3年目～は同様に出場していく。
- ⑥1年目は、「東北・北信越は成年男子」「関東・東海は成年女子」「近畿・中国は少年男子」「四国・九州は少年女子」が、それぞれフルエントリーとなる。

紙面の都合で、個別ブロックの3種別出場数まで記載できないが、現状と同様に定められた方法で、ブロック選出数また「監督資格」においては、従来の「山岳指導者」「スポーツクライミング指導者」から、「スポーツクライミング指導者のみ」とする考え方が大勢を占めた。ただ、指導者養成には一定の期間を要することか

ら、J S P Oと協議し実施時期を決定することも承認された。

今回のこの決定は、4種別が互いに切磋琢磨してブロック大会に臨み、本国体出場権を獲得する＝競技力の向上と、競技力レベルが著しい少年種別の本国体への出場枠の拡大や成年女子のさらなる強化も期待できると考えている。

監督資格については、昨年度の第74回国体（茨城県）監督会議における、「複数の監督からの競技への認識不足からくる質問」が、大きな要因となっている。

チーム競技である国体での監督＝指導者の失敗で、選手自身が出場できない場面も出てくるのが危惧され、本来の競技名にふさわしい指導者への移行が重要であるとの結論となった。

これらはいずれも、理事会の承認を経てブロック別研修会での周知を図りながら、J S P Oへの要望書提出となるため、具体的な実施の有無や時期については現状では未定である。

2日目は、前日の興奮冷めやらぬなか、今年度のブロック別研修会資料の確認や重点項目について検討がおこなわれた。さらには、委員会独自の「国体運営マニュアル」について、木村実専門委員より報告があった。

懸案の大きな事項の結論を出した安堵感から、会議はあっという間に進行し、水村信二主管理事の締めくくりで無事に終了した。

なお本委員総会に出席した滝内壽一専門委員が、一週間後に会津駒ヶ岳で亡くなった。痛恨の極みである。ご冥福をお祈りします。合掌

国民スポーツ大会開催申請書提出順序了解県の開催年の変更

【当初】

開催年	回	地区	本大会	手続き状況
2026 (R8)	80	西	宮崎県	開催申請書提出 順序了解
2027 (R9)	81	中	長野県	開催申請書提出 順序了解
2028 (R10)	82	東	群馬県	開催申請書提出 順序了解
2029 (R11)	83	西	島根県	開催申請書提出 順序了解
2030 (R12)	84	中	(奈良県)	
2031 (R13)	85	東	(山梨県)	
2032 (R14)	86	西	(沖縄県)	
2023 (R15)	87	西	鳥取県	開催申請書提出 順序了解



【変更後】

開催年	回	地区	本大会	手続き状況
2027 (R9)	80	西	宮崎県	開催申請書提出 順序了解
2028 (R10)	81	中	長野県	開催申請書提出 順序了解
2029 (R11)	82	東	群馬県	開催申請書提出 順序了解
2030 (R12)	83	西	島根県	開催申請書提出 順序了解
2031 (R13)	84	中	(奈良県)	
2032 (R14)	85	東	(山梨県)	
2023 (R15)	86	西	(沖縄県)	
2024 (R16)	87	西	鳥取県	開催申請書提出 順序了解

第145回 Mountain World

ダグ・スコット、79歳で逝く

池田常道

英国のヒマラヤ・クライミング牽引してきたダグ・スコットが12月7日、がんのため亡くなった。1941年5月29日ノッティンガム生まれの79歳だった。

1975年9月24日、ドゥーガル・ハストンと二人で難攻不落を誇ってきたエヴェレスト南西壁を登り、英国人として初めて世界最高峰の頂を極めた(1953年に初登頂を果たしたヒラリーはニュージーランド人だった)。クリス・ボニントン旗下の精鋭としてエヴェレストに挑んだスコットは、それまでの挑戦を跳ね返してきた難関のロックバンドを越えたところに作られた最終キャンプを発し、夕刻頂上を往復、帰途100m下方でビバークして帰還した。これは、それまでに最も高い場所で行なわれたビバークとなった。

スコットのエヴェレスト初見参は1972年春、ドン・ウィランズ、ハイミシュ・マッキネスと参加したヘルリヒコフアーのヨーロッパ国際隊だったが、8000mで敗退。同年秋のボニントン隊でハストン、ミック・バークと8300mに達していた。

スコットは生涯40回の遠征登攀をアジアの高峰で行ない、そのうち約30は初登攀だった。エヴェレストの前年には、ガルワールのチャンガバン(6864m)に初登頂。南西壁に成功した翌年にはアラスカへ出かけ、ハストンと一緒にマッキンリー(現デナリ、6194m)南壁新ルートを実験スタイルで登攀。77年には、エヴェレストの前に偵察していたオーガ(バインター・ブラック、7285m)に挑んでボニントンと二人で初登頂に成功した。ところが下降中に振り子トラバースに失敗して足を負傷、BCまで這って下るといふ危機を切り抜けた。

当時、『岩と雪』の編集に携わっていた筆者は、彼の登攀記録を連載したいと依頼した。「まだ、自伝を書くような年齢ではないが……」という前置きで送られてきた原稿と写真は1年間、6回(54号～60号)にわたって「ハードクライム」のタイトルで掲載された。遠征の合間を縫って書かれた内容は、ストローン・ウラディール北西壁、エルキャピタン・サラテ壁、バフィン島アスガード東ピラー、マッキンリー南壁と続き、5回目にオーガの初登頂と脱出行が描かれ、彼の広範

なクライミングをよく物語るものとなった。なお拙著『ヒマラヤ 生と死の物語』中のオーガの章は、彼の手記「人喰い鬼からの脱出」に依拠している。

これを縁として、その後もずっと遠征を終えるごとに詳細な報告を寄せてくれた。カンチェンジュンガ北稜無酸素登頂、ヌプツェ北壁、マカルー南東稜(失敗)、シシャパンマ南西壁、シヴリン東稜、チャムラン北壁、ナンガ・パルバットのマゼノリッジ(失敗)などの記録と写真で誌面を飾ってくれた。『岩と雪』がなくなってからも彼の『ヒマラヤン・クライマー』を、坂下直枝さんと共に翻訳する機会に恵まれた。元『マウンテン』編集長ケン・ウィルソンからは、「なんでボニントンのマウンテニア」も出さないんだ? と言われたが、著書の多いボニントンよりもスコットのほうが魅力的だったからにほかならない。1991年に東京で開かれた「マウンテン・サミット」に来日した際にスコットは、「長年のエアメールのやりとりの末に、やっと会えたね」と暖かい握手を交わしたものだ。

*

スコット(ダグラス・キース・スコット、CBE)は3人兄弟の長男として生まれ、12歳でクライミングを始めた。父親のジョージ・ダグラスは警察官にしてボクサー、アマチュアのヘビー級英国チャンピオンだった。スコットはグラマースクールを終え、59年から61年の2年間、教員養成学校を経て教職に就いた。担任科目は地理学と歴史だった。

もっぱら英国の岩場を登り、58年にアルプス初見参。62年にアトラス山脈、65年にティベスティ、クルディスタンへと足を延ばした。67年にはコーイ・バンダカー南壁を初登攀した。70年にはヨセミテへ行き、ペーター・ハーベラーとサラテ壁を欧州ペアで初めて登った。アルパインクライミング・グループ、アルパインクラブ会長を歴任、2011年にはピオレドールの生涯功労賞を受賞している。



負傷した足でオーガから這い下りるスコット
挿入写真は近著『The Ogre』の書影

増本亮&さやかの Never Ending Journey ①

世界中に登りたい山やルート、行ってみたい岩場がある。もちろんそのすべてに行けるわけではないけれど、その一つ一つを巡りながら毎日を過ごしてみたい。それがわたしたちの夢であり旅のかたちだった。

2019年の夏、私たち夫婦は5ヶ月間のクライミングトリップに出発した。今回はその旅の話をしたい。でもその前に、2018年の旅を振り返ってみようと思う。2019年の旅は、2018年からの続きとも言えるものだから。

2018年は北米大陸、そして南米パタゴニアへも足を延ばす8ヶ月間の旅だった。ずっとずっと憧れていた、長期のクライミングツアー。北米大陸の様々なクライミングエリアを長い期間かけて巡ってみたい、とわたしは長いこと夢見ていた。しかも、バン(車)で寝泊まりしながら! いいなあ、絶対楽しい。想像するだけでワクワクしていた。

結婚してからこれまで、年1回は夫婦で海外のクライミングへと出掛けていた。トラッドやマルチピッチが好きな私たちは自然と北米大陸を選ぶことが多く、スコームッシュやヨセミテ、コロラドなどを訪れた。だいたいながくて2カ月ほどの海外ツアー。フルタイムでしっかり(!)仕事をしていた頃だったら、それでさえ夢のような話だったけれど。

でも、北米大陸に行けば長期でツアーをしているクライマーは少なくない。常に旅をしていて、大きなバンが家、というようなクライマーも珍しくない。そんな光景は、私にとって憧れ以外の何ものでもなかった。行きたいところへすぐ行けるような身軽さと自由さ。車と言う限られたスペースに家の機能が詰め込まれていると



スコームッシュ、シャドウ

いう何とも言えないワクワク感。そしてクライミングのことしか考えないシンプルな日々。それらが私を引き付けて離さなかった。そして、自分たちの回りにも長期の北米クライミングツアーに行っている日本人クライマーの友人夫婦がおり、彼らからも強い刺激を受けた。いつか私たちも、と夫婦で旅の話をするようになったことは、ある意味自然なことだったかもしれない。

2018年が始まり、いよいよ具体的な準備を始めた。まずはアメリカに半年滞在するために、観光ビザと呼ばれる特別なビザを苦勞して取得し、遙かパタゴニア迄のトランスファーチケットをエイヤッと購入。現地でするバンは、アメリカ人クライマーの友人から彼の車を譲ってもらう約束を取り付けた。一番頭を悩ませたのは荷造り。厳選したつもりでも、やっぱりあれもこれもなくなってしまい(主に私)、最終的には2人分で140キロにもなってしまった。

夏の暑い日、私たちは出発した。重い荷物のおかげで、空港までの道のりは一山登る以上の大変さ。航空券の安さからまずはカナダを目指すのだけれど、「え?カナダもビザが必要なの!?’と、出発早々すったもんだ。離陸ギリギリに何とか飛行機へと飛び乗った。席に座った時には、体力的にも精神的にも疲労困憊。待ちに待った出発なのに、ドキドキもワクワクも吹っ飛んでしまった。わたしはいつもそう。旅の出発はいつだってバタバタなのだ。



スコームッシュのメインウォールであるチーフを望む



一緒に旅をした愛すべき我が家



奮闘必至のマルチルート「ユニバーシティウォール」1P目

現地に着いて早々友人に車を譲ってもらえたことで、スムーズに旅を始めることができた。持つべきものは、やっぱり友人。まずはカナダのクライミング天国であるスコーマッシュへ。スポーツ、トラッド、マルチピッチと登り、体をクライミングに慣らしていった。ここでの宿泊場所は、北米と言えば有名なスーパー「ウォルマート」の駐車場。こんなところで泊まってしまって怒られやしないかと心配したが、夜になると続々とバンやキャンピングカーが集まり、さながらキャンプ場状態だった。

日中はクライミングを楽しみ、車に戻り夕食を作って食べ、日が暮れば車の中で眠った。登って、食べて、眠る。ただそれだけのシンプルなクライミングライフには、今という時間を生きる充実感と豊かな幸せが詰まっていた。自分たちにとって本当に大切なものとは何だろう？これからの生き方や生活について考えるきっかけを、この旅でたくさん拾い集めたような気がしている。

スコーマッシュをあとにした私たちは、次なる目的地バガブーズを目指した。

増本 亮

1979年生まれ。静岡で育つ。高校時代の恩師と卒業登山に行ったことがきっかけに単独で山歩きを始める。その後、山岳会「登研」に入会しアルパインクライミングの世界に。大学卒業後は約10年間ビルの窓拭きをしながら毎週末山に行き、年に1~2回のペースで海外遠征に行くというスタイルで生活。現在はさらに自由な暮らしを求めて愛する瑞牆山の麓で、晴登雨読、時々仕事の生活をおくる。

増本さやか

1984年東京生まれ。高校時代フィンランドに1年間留学し、自然の中で遊ぶ楽しさを知る。大学時代に山岳部へ入り、山登りをスタート。ネパール・ヒマラヤの未踏峰への遠征が初めての海外登山であり、自分の山登りの原点で、クライミングをしながら旅するのが一番好きなスタイル。

JMSCA公認夏山リーダー資格を取得して

一般社団法人千葉県山岳・スポーツクライミング協会・
千葉県フリークライミング協会 **森田 通子**

2018年6月の机上講習から始まり翌年の検定会を得て「夏山リーダー資格」を取得することが出来ました。難しいことに「0001」を付与して頂き、更に勉強をせねばと思っている次第です。

本格的に山を始めてから6,7年。沢山の人に出会い、技術・経験・山の楽しみ方・恐さなど色々のご指導頂き今まで事故や怪我なくやってきました。

それでも登山に関してはまだまだ未熟であり、もっと勉強は必要だなと考えていた所 尊敬する先輩にこの資格について勧められ資格取得を目指して受講することになりました。

机上講習では、それぞれの分野で講師の方が経験などを交えて説明をしてくださり、救急法や救助活動などは実践しながらでしたので興味深く勉強することが出来ました。

また、同じく受講した方々の安全登山への準備・行動なども知ることができ自分自身の未熟さ・考えの甘さを痛感させられました。

実技講習では地形図を使った房総の山での実践で難易度が高く、本当に勉強になると感じました。スタート

から間違え、道中では道迷い…。しかし、他のグループはスムーズに下山。ここでもまた未熟さを痛感させられ、恥ずかしい限りでした。



講習後、1年間山の経験を積んで検定会を受け無事に何とか合格することが出来たのですが自分ではまだまだ未熟だと感じています。が、やはりこの資格を取得したということが自信に繋がり更に経験・技術・知識などを積んでもっとたくさんの人を山に連れて行けたらと思うようになりました。

現在、山での事故は自分達が思っている以上に多いです。事故だけでなく、マナーを守らない人も増えています。多くの方がルールを守って山を安全に楽しんでいくためにも、このような機会を使って勉強するのは良いことではないでしょうか。

これからは、もっとこの資格の認知度・受講者を増やし遭難や事故を少しでも減らし色々なことに少しでも協力出来たらと思っています。

講師の方々、色々とお大変なご指導頂き本当にありがとうございました。

コロナ禍の中で、その後で（その4）

（一社）大阪府山岳連盟会長 飛田典男

分断とか対立とかが日常の生活そして社会の中で喧伝され誰もが踊らされているように見受けられる。山の世界も何かがおかしと感じていた。先日、日経の日曜版でラグビーWC 2015大会の南アフリカ戦に歴史的な勝利を収めた試合で活躍した広瀬俊朗さんの小文を読む中で、NZのラグビーの愛され方とういかクラブハウスとコミュニティについて紹介されていた。人が人間らしく生きられるコミュニティ形成が最も重要だと、真に、これが今、登山に決定的に不足しているモノではないだろうかと感じた次第である。

嘗て、所属する山岳会の理想の姿として老いも若きも集う欧州のスポーツクラブハウスが夢想されていたことがあった。ところが、高速で情報が交換され、即物的な価値観に支配されて、己が事にかまけている現代では、この心の休まる場所が見当たらない。

大量に瞬時に情報が様々な媒体から流され続ける状況下で、自らの行動さえもタイムランで監視されている。スマホ世代は情報を検索する能力が高い事を誇っており、自らの頭に必要と思われるものまで刻み込まない様に見受けられる。実に薄っぺらいのである。いざ、語ろうとすると語るべき言葉が紡ぎだせないのである。自分自身を見失っているともいえる。加えて、ネット情報やBSで放送されるグレートトラバースや日本百名山の情報だけで山に簡単に登れると思わせる、危うさがある。また、地図もコンパスも持たずスマホのナビで何処へでも行けるものと錯覚している節もある。便利なものを使いこなし、正しく安全な技術を身に付けることが大切だと考えている。この為には、自己流ではなくスキーやスノボの技術検定制度に倣った技術検定制度を設け、安全な技術と知識を取得する制度を新たに「(仮称)ヒルクライミング検定制度」として取り入れては如何だろうか。歩くことにも技術があることを知ってもらう良い機会となるはずである。兎角、ヤマヤは独立独歩、ご意見無用の人種だと思われ、これらは馴染まないものと考えられてきた向きがあるが、時代は変遷し様変わりしている。

今、登山のマーケットに求められているものを知り、これに応えるのが我々の役割りである。リーダーを育てる事も重要だが山を楽しむ個々人の技術を高めることは更に重要である。COVID-19により単独登山が増加する傾向にある中、個々人の安全を確かなものとする生きた知識や裏付けされた技術のバックアップ

が欠かせない。検定制度受講条件に会員登録を行ってもらう事で飛躍的に会員数を伸ばすことも夢ではない。これが本当の意味での会員ではないだろうか。一部のヤマヤだけの世界からの脱皮が求められている。

今迄、リーダーを育てる事だけを考えてきたが、一部のエリートを育てるだけでは大多数の一般登山者のニーズを満たすことは叶わない。高齢化する登山界のレジェンドを相手にするのではなく、いままで放置されてきた一般登山者に手を差し伸べる事が現状を打開する大きなターニングポイントとなる。

その一方で、共通の山の話語り合う場、古い言葉でいえばサロンが必要である。自前でも公共施設でも、そこに行けば山の資料と郷土の登山史を知ることができ、誰でも自由に山の話に花を咲かせ、ビールやコーヒーを片手に会話を楽しむことができる身近な存在を構築することが幅の広い登山愛好家の集いの場となることを願っている。

JMSCA傘下の全国組織が疲弊していく中で登山の安全を如何に確保し、山の魅力と登山の文化を継承していくか、日本の山の固有さ(異質さ)を考えた山の安全と自然を如何に守っていくかを発信し、幅広い山を愛する人達に支えられる組織を目指すムーブメントを起こそうではありませんか。

UIAA総会報告

2020年度国際山岳連盟(U I A A)総会が10月23日～24日に開催された。新型コロナ感染パンデミックのために、今年の年次総会は88年に渡る長い歴史を通して初めてオンラインで開催された。参加者数は、これまでで最多となり、68ヶ国から130名がZOOMでの参加となった。さらに250名の国際山岳連盟の代表、パートナーらがYouTubeによるライブストリーミングを視聴した。

【プレジデント選出】

UIAAの新しい会長として、ACC(カナダ・アルパイン・クラブ)のピーター・ミュア氏(Peter Muir)が選出された。ミュア氏は14代目会長となり(2名の代理会長を含む)、カナダ出身者として2人目である。

ミュア氏は、オランダのNKBV(ロイヤル・ダッチ山岳クラブ)のフリッツ・ブリッジランド前会長(Frits Vrijlandt)の職を引き継ぐことになる。ブリッジランド氏の2期目と、UIAAの定款で定義されているように最終の4年間の任期が今年度の総会を以って満了となったためである。

UIAA新会長となったミューア氏は就任演説でこう語った。「私に対して示して下さいました信頼に感謝します。課せられたチャレンジに挑むために、大きな熱意を持って一生懸命頑張っていく所存です。全ての候補とボランティアの皆さんに私のメッセージを送ります。皆さんが提供して下さいる時間や、皆さんが与えてくれる最も貴重なものに感謝しています。またこれまでUIAAの会長として献身的に貢献して下さいましたフリッツ前会長にも御礼を申し上げます。」ミューア氏は、現在は理事会のメンバーであるアミット・チャウドリー氏と、UIAAの登山委員会の委員長であるピーター・ファルカス氏(Peter Farkas)が行なったキャンペーンにも敬意を表した。両氏とも、今回の会長選に立候補した。

次にUIAAの会長として最後の総会参加となったブリッジランド氏の退任の演説をご紹介します。

「これまでの8年間を顧みる時が来ました。私は、皆さんと共に取り組んできた全ての任務を誇りに思っています。またUIAAのファミリーの一員であることを非常に誇らしく思っています。新たなメンバーや、戻ってきたメンバー達を迎えたことや、各委員会や各大陸の組織の活動を含めて、多くのハイライトがありました。私達は様々なことを達成しました。例えば、山岳保護賞やロッククライミング・フェスティバル賞を設けたこと、”Respect the Mountains”の運動を始めたこと、そして、アイスクライミング競技の広がり、韓国のNorth Faceやアウトドアリサーチ(Outdoor Research)、ペツル・ファウンデーション(Petzl Foundation)やバリー(Balley)などのスポンサー及びパートナーから多大なサポートを頂くことが出来た事が挙げられます。一方で残念なこともありました。イタリア山岳会が連盟脱退したこと、そして、アイスクライミングが冬季オリンピックの競技種目に未だ採用されていないことです。

【新理事会メンバー】

- Zoljargal Banzragch氏、モンゴル(2019年選出)
- Lode Beckers氏、ベルギー(2019年選出)
- Amit Chowdhury氏、インド(2020年選出)
- Mahmood Hashemi氏、イラン(2019年選出)
- Martin Lascano氏、アルゼンチン(2020年選出)
- Françoise Jaquet氏、スイス(2020年選出)

【新マネージメント委員会(MC)】

- Anne Arran氏(再選)イギリス、欧州代表
- Kul Bahadur Gurungss氏、ネパール、一般代表
- Steve Long氏、イギリス、一般代表
- Jean Miczka氏、フランス、最大規模連盟代表
- Greg Moseley氏(再選)南アフリカ、アフリカ代表

- Phil Powers氏、米国、北米代表
- Stein Tronstad氏、ノルウェー、一般代表
(以上が新しく選出されたメンバー)
- Simon Aldens氏、マルタ、一般代表
- Jochem Driessen氏、オランダ、一般代表
- Stuart Gray氏、ニュージーランド、オセアニア代表
- Josef Klenner氏、ドイツ、最大規模連盟代表
- Christine Pae氏、韓国、アジア代表

新理事会とMCのメンバーの経歴、スキル、才能は様々である。出身国の山岳会の会長、理事会メンバーなど主要なポストに就かれていた方々も含まれている。職業は、自然科学、政治、法律、遠征・ツーリズムの経営、国際的な登山ガイドダンス及びトレーニング、極地研究や航空エンジニアなど多岐にわたる。新理事とMCメンバー達の高い専門性と彼らの熱意により、UIAAのあらゆる活動は間違いなく恩恵を受けるだろう。また、人事の多様性によって、UIAAの普遍性が実現され、はより優れた表明をすることができるであろう。また、連盟が、様々な局面に直面した時に活用できるリソースが増えるであろう。

今総会で選出された理事会とMCのメンバーは、旧メンバーと共に、全世界七大陸の18ヶ国を代表しており、グローバルレベルの山岳ネットワークとしてのUIAAの役割をさらに強化していく事を誓った。

今総会でも、JMSCA代表は、MC選出選挙(一般代表枠)にて敗れたが、UIAAが目指す気候変動を中心とするSDGs、未来の五輪競技への支援にフォーカスを強め、アジアのコアとして、山岳振興の充実と国際的社会的貢献へのコミットメントを一層強めていくべきであることを痛感した。

(副会長 丸 誠一郎)



2020 I F S C 総会報告

2020年11月13、14日日本時間20時から24時にかけて、2日間にわたり第16回総会が行われた。

初日はI O C会長、2日目にはA S O I F（夏季オリンピック競技の団体）会長の挨拶があるなど国際的にもオリンピック競技としてスポーツライミングが存在感を増している印象でした。その挨拶からはオリンピック自体が時代と共に求められるスポーツの価値や人々の嗜好など変わりゆくスポーツ情勢に対応しつつ発展を遂げて行こうと言う意思が伝わるものであった。

また、スポーツライミングに関しては、今の若者を魅了するアーバンスポーツとしての時代に即したスポーツとしての期待や魅力を絶賛する言葉で埋め尽くされ心地よい冒頭での挨拶として2日間続いた。

一方、今回の総会は歴史的にも初めてのウェブ開催のため自分も含め慣れていない側面があった。話すべき相手の不接続、また途中滞りことも多々あった。しかしながら、時間的には2日間の日程がスケジュール通りに終えられた印象で、想定内の総会であった。

主な決議された内容としては、新しいメンバーにMalta (M S F A)、Mauritius (M S C F)、Nepal (N C S A)、Saudi (S A C H F) が加盟し、アフリカ8、アジア23、ヨーロッパ44、オセアニア3、パンアメリカ16の計、加盟94団体となった。

また、2024年のパリオリンピックの選考大会になる

であろう2023年世界選手権にスイスのベルン、韓国のソウル、中国の重慶が立候補し、スイスが過半数を超える投票を得て開催が決定された。さらに今回3回目の総会出席になったが、印象的なのは規程の細々とした改定がかなりなされた印象であった。I F S Cも協会内のガバナンスを高めると言うことなのであろう。

また、長期的な戦略ビジョンのなかに2024年のパリオリンピックを成功させ、2028年にパラライミングをパラリンピックに参加させたいと言う目標を推し進めるようだ。

また、スコラリス会長はスピード、ボルダー、リード3種目をできる限り早い段階でそれぞれの独立した種目としてオリンピックの舞台で選手を活躍させたいと強い意志を感じた。

その他、選手のワールドカップでの各国参加枠がその国が持つ選手の力（結果）によって枠が2人から5人で推移する事が可決された。さらに、パリオリンピックに向けて複合種目の計算方法がこれまでと違う方法が検討されているなど、このように、各国枠を結果によって推移する方法や一般大衆が分かり易く盛り上がる方向への変更など、スポーツライミングがより良くなるよう活発に動いていることを強く感じた。

我々J M S C AとしてもC A Sの件が有りながらも、今後より良いスポーツライミングの発展の為にI F S Cとの協力は欠かせないと感じた総会でもあった。

次の総会は2021年4月、パリで行われる。

(副会長 平山ユージ)



令和2年度 第6回Web理事会報告

日時：令和2年11月12日(木)
14:15～17:40

場所 Web会議

出席者 八木原会長、亀山、平山、丸各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、合田各常務理事、相良、蛭田、町田、村岡、村上、山口(途中入場)、水村、前田(途中入場)、六角、唐木、古賀、山本、古林、小日向、安藤(途中退出)各理事、中島、古屋各監事

1. 開会

冒頭、八木原会長から手術入院中にお世話になった旨の挨拶があった。事務局長から理事23名、監事2名の出席が確認され、事務局長がオンライン会議のホストを務めて議事に入った。

2. 議題

(1)議案第1号 議事録の承認について

①令和2年度第5回理事会議事録の承認について(事前送付済)

異議なく承認された。

(2)議案第2号 令和2年度上期事業報告及び決算報告の承認について

事業報告については小野寺常務理事が、決算報告については相良理事が、各々資料に基づいて報告した。

上期経常増減額は、74,927千円の黒字となった。

監査所見については古屋監事が資料に基づいて報告した。

予算管理規程による具体的手順の周知徹底と予算管理体制の堅持の必要性を指摘した。

異議なく承認された。

(3)議案第3号 J M S C A 創立60周年記念祝賀会について

最近のコロナウイルス感染拡大の現状を見て、明年1月16日に飲食を伴う祝賀会を開催する事に対して、慎重な意見が大勢を占めた。

最終的に議長が議場に諮り、開催の延期が決議された。

(4)議案第4号 山岳スキー選手登録について

国際大会に出場する日本代表選手は、A D・倫理研修を受けてA登録する。但し、今年度は特例としてA登録しなくても代表選手として認める。ことが諮られ、異議なく承認された。

(5)議案第5号 令和3年度事業計画方針(案)について

事業計画方針(案)に加筆訂正があれば週明け11月16日(月)までに尾形専務理事に連絡することになった。

事業計画方針、予算編成方針、予算編成様式、部門予算枠を各部経由で委員長に配布し、それに基づいて予算編成をしていただく。

(6)議案第6号 令和2年度第4次補正予算(案)について

第3回コンバインドジャパンカップ、第11回高校選抜クライミング選手権等の補正予算が提案された。

異議なく承認された。

(7)議案第7号 2020年度日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰候補者推薦について

指導委員会から以下の3名が推薦された。榎田靖憲(福井)、水谷嘉宏(岐阜)、米倉得雄(島根)

- 異議なく承認された。
- (8)議案第8号 山岳共済会のPRについて
水島常務理事が資料に基づき提案を行った。各県に共済会担当者1名の選任と共済会名称及びマスコットの名称募集の依頼文が付議された。
異議なく承認された。
- (9)議案第9号 国民体育大会規定の改正について
ブロック選出数の改定(成年男子フルエントリーの解消)案について諮られた。
ブロック大会での選出種別を成年男子、成年女子、少年男子、少年女子の実施を目指す。実施時期は、J S P O承認後。
異議なく承認された。
- (10)議案第10号 後援名義使用申請について
岡山フリークライミングクラブの「ボルダリング体験会」が諮られた。
異議なく承認された。

3. 報告

- (1)報告第1号 中長期計画策定PTについて
亀山副会長が資料に基づいて説明を行った。PTメンバーを11月17日(火)までに人選する。
- (2)報告第2号 予算執行管理に関する運用規律について
亀山副会長が資料に基づいて説明を行った。
- (3)報告第3号 U I A A総会報告について
10月23日、24日のオンライン総会について報告された。
新役員は、以下の通り。
新会長：Peter Muir (カナダ)。E Bメンバー：Francoise Jaquet (S A C), Martin Lascano (F A S A), Amit Chowdhury (I M F), 地域に属さないMCメンバー：Steve Long (B M C), Stein Tronstad (N T K, N A C), Kul Bahadur Gurung (N M A)、丸副会長は、次点に終わった。
- (4)報告第4号 支援プロジェクト「climbing for tomorrow 2020」について
丸副会長が報告を行った。J M S C Aのコーポレート価値を上げるのに役立っているが、やや苦戦している。
- (5)報告第5号 アジア選手権開催について
11月14日までに立候補する国がなければアジア選手権の開催は中止。現状、開

- 催の可能性はほぼない。C A Sの結果次第でアジア枠は日本になる。2023年の世界選手権に3か国(中国、韓国、スイス)が立候補している。
- (6)報告第6号 山岳スキー選手選考について
常務理事会である程度の結論が出たが、若干調整があり後日報告する。
- (7)報告第7号 後援名義使用申請について
国交省からの「雪崩防災週間」が報告された。
- (8)報告第8号 令和元年度J O Cスポーツ賞について
特別功労賞・榎崎智重選手の報告があった。
- (9)報告第9号 10月度月次会計報告
相良理事が資料に基づいて報告した。
- (10)報告第10号 指導常任委員の追加
寺崎良夫(福岡)氏の追加が報告された。
- (11)報告第11号 登録選手規程細則について
第2条第2項の改定が報告された。
- (12)報告第12号 2021年度第14回山岳スキー日本選手権開催について
唐木理事が開催要項について報告した。
- (13)報告第13号 第11回全国高等学校選抜スポーツクライミング大会について
村岡理事が開催要項について報告した。
- (14)報告第14号 第8回L Y C報告について
村岡理事が資料に基づいて報告した。
- (15)報告第15号 第3回C J C要項について
村岡理事が開催要項について報告した。
- (16)報告第16号 今後の競技日程について
村岡理事が競技スケジュールについて報告した。
3月のL J CがF I S Eと被るため2月開催で検討中。
- (17)報告第17号 ユース代表選手選考/スピード
古林理事が資料に基づいて報告した。
「Top of the Top」も盛況のうちに終了との報告があった。
- (18)報告第18号 レスキュー講習会(積雪期)について
町田理事が開催要項について報告した。
講習会の方法を工夫したとのこと。
- (19)報告第19号 業務執行理事の職務執行報告

- 各々の業務執行理事が、資料に基づき報告を行った。
- (20)報告第20号 長期借入の返済について
尾形専務理事から11月12日をもって完済した報告があった。
- (21)報告第21号 山岳共済会の令和2年度上期事業報告と決算について
尾形専務理事から資料に基づいて報告があった。古屋監事から監査報告があった。

4. 会務・役員派遣

- (10月9日～11月11日)
- (1)インテグリティ・コンプライアンス意見交換 10月9日(金) 日本ラグビーフットボール協会とオンラインにて恒石委員長他ガバナンス委員
- (2)第8回リードユース日本選手権南砺大会 10月10日(土)～12日(月) 於：南砺市桜ヶ池C C 平山・丸副会長、村岡理事
- (3)インターンシップ(金澤琳)受入れ 10月15日(木)～21日(水)
- (4)J O C専務理事等会議 10月16日(金) Web会議 尾形専務理事
- (5)東京2020オリパラに向けた新型コロナウイルス感染症対策に係る政府・競技団体間連絡会議 10月20日(火) オンライン会議 尾形専務理事
- (6)富士山利用者負担専門委員会 10月23日(金) オンライン会議 尾形専務理事
- (7)U I A A総会 10月23日(金)～24日(土) オンライン 丸副会長、小野寺常務理事
- (8)スポーツクライミング体験会 10月24日(土) 於：福岡・Bara Hands Climbing Gym 原田事務局長
- (9)夏山リーダー養成講習 10月24日(土)～25日(日) 於：神奈川県山スボ及び丹沢 蛭田理事他
- (10)スポーツクライミング・ジャパンツアー2020(B/S) 10月24日(土)～25日(日) 於：岩手県宮運動公園 宮澤委員長
- (11)神奈川山岳スポーツセンター施設指定管理者評価委員会 10月26日(月) 於：神奈川県スポーツ課 小野寺常務理事
- (12)第81回宮崎国体視察 10月27日(火)～28日(水) 於：宮崎県 平山副会長、西原委員長
- (13)山岳スキーアジアカンファレンス打ち合わせ 10月27日(火) オンライン 丸副会長 笹生委員長
- (14)2020年度上期監事監査 10月30日(金) 於：事務局会議室 古屋監事、尾形専務、小野寺常務理事、相良理事、(註)中島監事は家族弔事のため欠席
- (15)安全登山サテライトセミナー 10月31日(土)～11月1日(日) 於：兵庫県立「のじぎく」会館大ホール 古賀・前田理事
- (16)日本代表選手オンラインコンペ 10月31日(土)～11月1日(日) 於：西条市石鎚クライミングパーク 丸副会長、古林理事他
- (17)山岳遭難事故報告会 10月31日(土) オンライン 町田理事
- (18)スポーツクライミング・ジャパンツアー2020(B) 11月7日(土) 於：西条市石鎚クライミングパーク 宮澤委員長他
- (19)夏山リーダー養成講習 11月7日(土)～8日(日) 於：神奈川県山岳スポーツセンター及び丹沢 蛭田理事他

寄贈図書

会報	(一社)大阪府山岳連盟	「山岳おおさか」No.225
	(特非)日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.79
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.511 202011
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第641号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2020年11月 No.371
	(公財)日本スポーツ協会	「Sport Japan」Vol.52
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」12月号 No.550
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.98 No.1089
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第351号
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.732
寄贈本	(公社)日本山岳会	「山」2020年11月号 No.906
	(株)山と溪谷社	「画文集 山の独奏曲」串田孫一
広報誌	(公財)日本スポーツ協会	「JSP0スポーツニュース」「JSP0フェアプレイニュース」Vol.122
	(公財)埼玉県スポーツ協会	「スポーツ埼玉」Vol.289
雑誌	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」12月号 No.882
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」12月号 No.1029
新聞	(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2306号、第2307号、第2308号

編集後記

今年を振り返ると殆ど何もできなかった年である。皆が期待を寄せていた東京2020オリンピックの1年延期、第75回国体鹿児島大会の延期と続き、軒並み大会や講習会が中止となった。会議はリモートになり、協会創立60周年記念式典・祝賀会も予定の正月開催は無くなった。2月に始まった新型コロナウイルスの感染拡大がもたらした行動変容である。海外でワクチン接種が始まると報道されたが万全ではないようだ。12月6日「はやぶさ2」が帰還カプセル回収に成功した事が明るいニュースか。2021年も宜しくお願いします。

(広報担当 水島彰治)

表紙のこぼれ

1984年のマモストーン・カンリ(7,516m)日印合同登山隊は、インド側から東部カラコルムに入域した戦後初めての外国隊だった。そのため山容写真も無く、殆ど資料の無い中で、計画を立てなければならなかった。現地入りしてインド側から5万分の1のアーミー・マップを見せられて、初めて東面に食い入るタンマン氷河の存在を知った。南面のマモストーン氷河側は、圧倒的な大岩壁のため、南稜のコルを越えてタンマン氷河に廻った。タンマン氷河側に登頂ルートを見出せたので、このコルを「希望のコル」と命名した。タンマン氷河に入ると目の前に南面からの山容とは違ったアクタシが眺められた。

(写真撮影者 尾形好雄)

JMSCA 60周年募金協力者ご芳名

(2020年11月30現在、敬称略)

20口：群馬県山岳連盟

(総額：1,147口 5,735,000円)



想像をはるかに超える“保温力”
超肌着力



〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第621号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)
発行日 令和2年12月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会
電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



1月号
発売中

【特集】上高地とウェストン

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格880円(+税)

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊

年間購読なら12冊

1冊分
おトク!

~~10,560円~~ (税別)
11,616円(税込)

→ **9,680円** (税別)
10,648円(税込)



A4サイズが
入る!

岳人
トートバッグ

丈夫なコットン製で
マイバッグとしても
重宝します。

▶サイズ：幅36×高さ37×高さ11cm

年間購読特典

全国1,800カ所以上で
ご優待!

岳人カード



全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなお優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>

<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。
あしたを作る。
三井住友海上

損害保険と聞いて、
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ることを、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう
三井住友海上
時空保険
探査部
Space-time Insurance
Exploration Department

人類にとっての
損害保険の
必要性を調査。

時空を超える
ゲート。

社員証を
かざせば
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



WEBからお申込みいただけます